

# 杉並区立西田小学校 第10回 学校運営協議会記録

・日時 平成31年2月23日（土） 13時30分から15時10分

・場所 杉並区立西田小学校図書室

・出席者 諏訪会長、成田会長職務代行

【委員】小堂校長、半澤、望月、渡邊、目黒、恵良、檜枝（記録）

【事務局】新井副校長、濱元先生

・配布資料 資料1 平成30年度第10回学校運営協議会次第

資料2 平成30年度第9回学校運営協議会記録

資料3 平成31年度教育課程について（届）

資料4 平成31年度年間行事予定表

資料5 平成31年度特色ある学校づくり予算等提案書

資料6 ESDの視点を取り入れた「学びの蒂の時間」の改善を目指す

資料7 ニシタス（平成31年4月版）

## 1 会長挨拶

・本日午前中のESD子供報告会は素晴らしかった。議案5で協議したい。

・新井副校長の怪我からの復帰、おめでとうございます。

・花粉の量が増えてきたので、花粉症の症状が重くなってきた。

## 2 校長挨拶

・本日午前中のESD子供報告会への参加、ありがとうございました。今回が3回目となるが、毎年充実してきており、積み重ねの大切さを実感している。

・子供たちがメタ認知を実感して報告していることは、すごいことだと思った。

## 3 教育委員会から

・なし

## 4 前回の協議会記録について（協議）

・了承された（資料2）。

## 5 ESD子供報告会に参加して（協議）

・昨年も参加したが、今年は発表力が確実に向上していた。積み重ねが大切。他校の発表会に参加したが、生徒の質問が生徒ではなく先生に向かっていた。西田小ではそのようなことはなく、しっかりできていた。

・生徒の半分が聞き役となり、聞き手として積極的に参加していたのが印象的であった。

・一般論でなく自分の問題として具体的に取り組んだ内容の発表で、話が広がらなかったのが良かった。

・学年が上がるとテーマがだんだんと大きくなっていた。高学年はテーマが大きすぎる気もした。

- ・テーマは学年ごとに変わっているが、同じテーマを次の学年に持ちあげて深める方法もあるだろう。
- ・掲示物を見ると、自分の意見を紙に書いて貼ってあった。短い文章で自分の思いを伝える機会はないので、とても良い訓練になったと思う。大人になっても役に立つ訓練である。
- ・支援本部が紹介した外部講師の名前が紹介されていて、情報源が明示されていたのは良かった。
- ・子供たちは議論する習慣を ESD の中で身に付けたので、それを家庭に持ち帰り家庭内でも議論の習慣がつくと良い。
- ・ESD 発表会に 3 回参加したが、これまでの 3 回で確実に進化している。
- ・濱元先生から、報告会は 1 年間を通して学んだことを発表する場だが、発表会の準備を始めた時点からの調べ学習の発表になり勝ちになるとの発言があった。
- ・5 年生のテーマは環境だが、6 年生は平和がテーマとなる。そのため、報告会が終わると 5 年生の環境に関する関心はしぼんでしまう課題があるとの発言があった。それに対して、SDGs の視点から全体を関係づける場を設けると良いとの助言があった。
- ・校長から、教員が頑張った結果と思うし、教員の成長を実感したとの発言があった。教員が生徒に任せることができるようにになったという意味で、教員も生徒も成長したのだと思う。
- ・自由学園初等部の先生 10 名が参加した

## 6 平成 31 年度教育課程について（協議）

- ・濱元先生から資料 3 に基づいて、昨年度からの変更点を中心に説明があった。英語のインプットの機会は増えてきているが、アウトプットの機会がほとんどないのでその機会を作ることを来年度の新しい取り組みとした。具体的には「西田英語村」と近隣のネパール人学校との交流を計画しているとの説明があり、了承された。なお、「西田英語村」等については議案 7 で詳しい説明があった。
- ・平成 31 年度年間行事予定表（資料 4）が紹介された。
- ・土曜日授業に関して質問があり、以下の説明があった。土曜日授業は基本的には「地域と関係」がある必要があるが、年間 2 回までは地域と関係ない内容でも行える。

## 7 平成 31 年度西田小特色ある教育活動について（報告）

- ・西田英語村プロジェクトの申請書（資料 5）に関して、教育長等に向けてのプレゼンテーションで使ったパワーポイント資料を用いて濱元先生から詳しい説明があった。英語によって ESD の学びを深める（ESD × CLIL）ことを目指している。以上の説明について以下の意見があった。
- ・素晴らしい計画なので、強力に進めてほしい。
- ・スキルだけでなく ESD という内容があるのが良い。
- ・小学校でも大学でも日本の英語教育の問題点は共通していて、「英語を使わなければならない状況」が作れないことで、この計画はこの問題点を解決する現実的な計画なので大変良い。将来的には「英語を使わなければならない状況」が学校内に恒常的に作れるに良い。
- ・母語としての日本語教育が手薄にならないように、バランスを取りことも大切だととの指摘があった。
- ・英語を学ぶことによって日本語の学びが深まる効果もある。
- ・支援本部としてどのように協力するか検討している。学習支援チームの中に、E サポグループを新たに組織する予定である。

## 8 事務連絡

- ・副校長から、卒業式・入学式の案内を後日送るので出欠を連絡してほしいとの発言があった。

卒業式：3月23日（土）9時20分。委員は9時集合。

入学式：4月8日（月）10時30分

- ・校長から以下の説明があった。

来年度の新1年生は現時点で106名なので、4クラスになる予定。

4月から学校運営協議会委員として保護者の山内氏が参加する。山内氏はPTA会長であるが、保護者の代表でありPTA会長という役職上参加するのではない。

- ・会長から、森絵都著「みかづき」は塾をとおして1970年代からの教育事情の変遷がよくわかるので、目を通すと参考になるとの紹介があった。
- ・会長職務代行から講演会のレジュメが資料6として配布された。
- ・学校支援本部長の半澤委員が、新入生向けチラシ「ニシタス」を配布して概要を説明した。
- ・次回（第10回）学校運営協議会について

日時：2019年3月20日（水）18時30分から